校友時報

平成元年3月7日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

65分授業を導入

定期テストも4回に

効果上げる努力を 期待と不安が交錯

本校は、来年度四月五日から、従来の五十分授業を改正、十五分延長し一時限を六十五分とすることとしし。またそれと同時に、年間五回実施されてきた定期テストが一回減り、四回に改められることとなった。

この授業時間の改革は、授業内容を今までより濃いものとし、生徒の持続力・集中力を一層高めるために導入されるということである。

しかし、期待もある一方で生徒の間には不安や戸惑いもあるようである。授業に対する認識と態度を改めて問いなおし、しっかりとした気持ちで勉強に臨む姿勢が必要になるであろうと考えられる。

（二面に続く）

65分授業導入を報じた新聞各紙

三百二十四人が卒業

皆勤賞が十七人に

今日三月七日十時から、昭和六十三年度卒業式が第一体育館で行われる。式には、卒業生ほか県教育委員会をはじめ来賓の方々、教職員、父兄、在校生らが出席する。

本校を後にする卒業生は三百二十四名である。卒業生代表として三Gの菊地済さんが校長先生から卒業証書を受けとることになっている。

また、三年間無遅刻、無欠課、無欠席の人たち十七名に皆勤賞が授与される。代表者は三Aの村上賢誠さんである。

今年の卒業生のうち、進学を希望している人は約二百八十人であるが、二月末までに、のべして百数十人の人が各大学に合格している。このあと、国公立、私立が三つづき発表されるので期待される。また就職希望者はすでに全員内定している。

今年の三年生は、国公立大学の分離、分割の複雑化、共通一次の理科のかさ上げ、私立大学の難化にもかかわらず、大変ながんばりを示し、入試の結果も今のところ好調である。

いつもの例に違わず、落ちつかない気持ちで卒業式を迎えた人が多かったようだが、今日は、能高三年間と来るべき未来に思いをはせ、決意を固めてほしい。

なお、皆勤賞受賞者は次の人たちである。

（A組）工藤正仁、村上賢誠、吉田創。（B組）相沢希、佐藤義広、畠山雅樹、小山浩生。（C組）柴田義則、大鐘勉、畑内隆明。（F組）佐藤和則、見上正幸、工藤ゆかり。（G組）菊地済、北宮卓、庄内博子、桧森真実。

卒業生へ飾り皿

学校へ椅子と時計

毎年在校生から卒業生へ贈られる記念品は、今年はアンケートの結果などから昨年までのケース入りのハンコに代えて飾り皿となった。（写真）費用は在校生の臨時徴収によるものであり、今年は一人当たり五百円負担した。

また卒業生から学校へは、丸い壁掛け時計五個と丸椅子十脚、それに視聴覚室用補充椅子三十五脚が寄贈された。

時計は第二体育館や会議室などに、また、丸椅子は面接などに使うため、職員室と視聴覚室に備えられる。

最後の「共通一次」実施

物理・生物でかさ上げ

さる一月二十一、二十二日の両日に渡って、今年で最後となる共通一次試験が実施され、本校生は秋田大学で受験した。

本校の三年生は、百五十八人が願書を提出していたが、中には提出後に推薦入学が決まった人もおり、受験者は当初の予定より多少減った。

翌二十三日からは、各自で自己採点をし、三者面談をするなど、共通一次の結果と目指す大学の志願状況を参照して、最終的な志望校の選択に懸命だった。

そうした中で、一月二十七日、大学入試センターでは、平均点の低過ぎを生物・物理について、共通一次始まって以来のかさ上げを発表した。このことは、二次試験へ向けて追い込みを掛ける三年生をますます不安にさせたと言える。やはり受験生や父母は、戸惑いを隠しきれない様子で、同センターには抗議の電話が殺倒したとのことだ。

化学や地学を選択した三年生は、「一点を取るためにここまで頑張ってきたのに、あれだけ簡単にかさ上げされてはたまらない」との声が多く、生物や物理を選択した三年生には、「問題は難しかったがこれでなんとか助かった」との声が目立った。どちらにしても、混乱を招いたことは言うまでもない。

また、かさ上げの影響もあり、共通一次の全国平均点は、五百四点と発表されている。本校の出来も、例年並みであったようだ。

二次試験は、二月二十八日から三月一日までA日程、三月五日からB日程までの大学で実施される。本校の三年生は、百数人が願書を提出しており、最後の関門に挑んだ。

私立大の入試はなのところ好調。国公立もがんばってほしい。

二次願書の提出先を相談する3年生

新テスト移行へ

共通一次導入以後、分離・分割方式導入など、猫の目のように変わり、受験生を不安にしてきた大試制度が来年度からは「新テスト」へ移行する。

共通一次によって大学のランク付けが進んだとか私立大学の参加など、今後残した問題も多く、前途多難であるだろうが、落ち着いて受験できるようにしてほしいものである。時期的に見ても、新テストは今後具体的な展開をみせるであろう。

昭和から平成へ

新元号

25分で54%が知る

昭和六十四年一月七日午前六時三十三分に昭和天皇が崩御された。悪化し、以来闘病生活は三ヵ月半に及んだ。

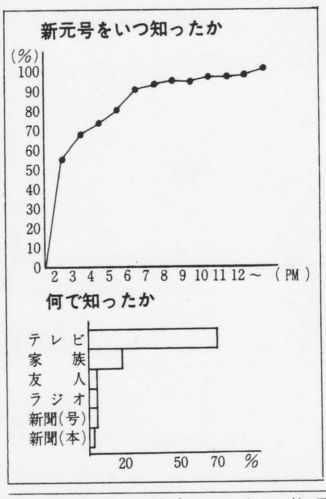
崩御の当日、午後一時三十六分に新元号「平成」が小渕官房長官から発表され、翌日より「平成元年」になった。また、二月二十四日は大喪の礼が行われ、学校も休業になった。

新聞部が、一、二年の生徒百人を対象に調査した結果、新元号の「平成」が発表されてからわずか二十五分後、午後一時台にはもうすでに五十四パーセントの生徒が新元号を知っていた。そして夕方六時前には八十パーセント、七時前に九十パーセントの人が、新元号を知ったとがわかった。

また、どのようにして知ったかとなると、七十パーセントの人がテレビで知り、次に多いのは、家族から聞いたという十九パーセントだった。その他には、ラジオから、友人から、新聞からという人もいた。

学校が休業だった大喪の礼の日は、家で趣味に熱中していた、勉強した、友人と遊んでいたという人が多く、普段の休日と大して変わっていないことがわかる。テレビでは、大喪の礼の特集が放送されていたわけだが、見たのは、多い人で三時間くらいだった。

全体的に新元号に対する特別の感慨はないようだったが、一生に一度あるかないかの時代の変わり目に遭遇し、記念すべき時の意義をかみめた人が多いのではないだろうか。



地元就職者

座談会開く

能代山本地域生徒指導研究推進協議会が二月二十二日、本校で新卒地元就職者の座談会を開いた。

本校は、募集人員が昨年と同様の三百十五人に対し、志願者数三百三十二人、倍率にして一・〇五倍と昨年の一・三倍に比べてやや楽になった。

座談会には、能代山本六高校から十二人が参加し、四月から新社会人として第一歩を踏み出す期待や不安を語った。本校からは、能代市役所に就職する青山英弘くんと昭和木材に就職する飯田信子さんが出席した。

今春の地元就職は誘致企業の進出などで例年になく明るいが、それでもまだ県外就職が過半数を占めているとのことである。

話し合いの模様は北羽新報で報道された。

倍率下がる

―高校入試

今年の公立高校の試験は、三月九日に各志望校で行われる。

入学願書は二月八日に締め切られ、その後二月二十日正午までに志願変更が行われた結果、最終志願者数が確定した。

本校は、募集人員が昨年と同様の三百十五人に対し、志願者数三百三十二人、倍率にして一・〇五倍と昨年の一・三倍に比べてやや楽になった。

秋田の創造を

秋田県知事祝辞

卒業おめでとうございます。

晴れの日を迎えられた皆さんに心から祝いの言葉を申し上げます。

皆さんは、人生における最も貴重なときを高等学校で学び、そして今、決意も新たに、未来への第一歩を踏み出そうとしておられます。

この意義ある出発に当たり、まずもって、ご両親をはじめ多くの方々の愛情と励ましに支えられ、この栄えある日を迎えることができたことに思いをいたし、感謝の念を深めていただきたいと思います。

皆さんは高校生活を通して、豊かな学力を蓄積されるとともに、人間性の本質にかかわる思いやりの心や困難を克服する精神、そして勤労の喜びなどを体得されました。その貴重な成果を基盤として、今後一層自己開発に努め、意義ある人生を歩まれますよう希望いたします。

我が郷土秋田は、自然の恵みと県民のたゆみない努力によって、年々発展してまいりました。更に新時代にふさわしい新たな発展を期するためには、変化し続ける社会情勢を踏まえ、時には発想を転換して大胆な改革を図ろうとする皆さんの若い力を必要としております。

どうか皆さんの一人一人が、明日の秋田を創造する強い手であるという使命と責任を自覚され、有為な人材となって郷土を支えてくださるよう期待してやみません。

皆さんのこれからの人生が幸せに満ち、充実したものになりますことを念じ、お祝いの言葉といたします。

平成元年三月
秋田県知事　佐々木喜久治

複眼で見よ

県教委の励まし

雪国の大地にも穏やかな季節の気配が感じられる本日、栄えある卒業式を迎えられた皆さんに心からお祝いを申し上げます。

かけがえのない青春の日々、高い理想を掲げ、常に向上心をもって自らを鍛えながら、母校の伝統と栄誉を高めてくださったどれまでの努力を大いに称えるとともに、ご両親、諸先生、地域の方々に対して深く感謝と敬意を表します。

日本の新しい時代の幕あけとともに、皆さんも人生における記念すべき日を迎えられました。

こうした時に当たり、改めて自己の生き方を振り返り、そして将来への展望を明確にすることは、人間としての成長を図るうえで極めて大切なことであります。

今、社会は、技術革新をはじめ、高度情報化、国際化などの進展に伴い、ますます複雑な変化の様相を呈しておりますが、そうした情勢に対応するためには、皆さんもまた、複眼によって有機的、総合的に時世の動向を見極める必要があります。そして、進取の気概をもって、それに果敢に挑戦され、個性豊かな若人として大きく飛躍していかなければなりません。

そのためにも、高校時代に身につけたたくさんの知識や情報を十分に活用するとともに、思いやりの心を大切にし、苦難に耐える強靭な心とからだをもって、何事にも積極的に対処していってほしいと思います。また、国際的な視野に立って、青年らしい清新な感覚と、大胆でたくましい行動力を発揮し、明るく豊かな社会の建設に貢献されるよう願ってやみません。

希望に満ちた旅立ちに当たり、限りない可能性を秘めた未来に思いをはせ、心には深く期するものがあろうと思います。

皆さんの前途が、健康に恵まれ、幸多いものであることをお祈りして、お祝いの言葉といたします。

平成元年三月
秋田県教育委員会